

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270135108		
法人名	社会福祉法人 小榊アスカ福祉会		
事業所名	グループホーム ひばり		
所在地	長崎県 長崎市 みなと坂1丁目6番35号		
自己評価作成日	平成23年11月9日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「笑顔・真心・思いやりのある温かいお家」「みんなが遊びにこられる楽しいお家」「安らぎのあるのんびりしたお家」の理念のもと、利用者中心のケアを行っている。家庭的な雰囲気の中で、本人がしたいことや出来る事、残された力を大切にしながら生活している。・ホーム内は、中庭や広い居室や、みんなでゆっくり出来る共有スペースがあり、ベランダからは海や山が見渡せ、自然環境にも恵まれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長崎港を一望できる新興住宅の一角にホームを含む法人高齢者施設は位置している。理事長は社会福祉法人としての役割を熟知し実践している。認知症に対し温かい目で見守り、地域の認知症の拠点になる役割を担おうとしている。職員は介護者としての知識の向上意欲が高い。職員の年齢層に広がりを持たせて認知症ケアに細やかな支援ができるよう体制を整えている。ケア統一のための各種記録も詳細にとられており、次のケアに活かされている。利用者が楽しめるプランを実施し利用者の笑顔に繋がっている。ホームの暖かみは家族との関わりにもある。イベントに参加する家族も多く、準備段階からかわり大きな意味で家族として活動している。まさに理念「笑顔・真心・思いやりのある温かいお家」「みんなが遊びにこられる楽しいお家」「安らぎのあるのんびりしたお家」が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は毎朝、朝礼時に唱和している。その他に職員で作上げたひばりの理念があり、ミーティング時に唱和と、理念に基づいたケアが出来ているか話し合いを重ね、実践に取り組んでいる	法人の理念とは別に職員が話し合っただけで決めた事業所の理念を、月2回のミーティング時に唱和し確認している。食事作りを一緒にするなど「生活の場を共に一緒に」の姿勢で支援に努め、職員は理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催する、夏祭りやおくんに参加している。その他、地域の清掃活動、挨拶運動を積極的に行っている。当施設の行事には、地域の方を招待し、小中学生の交流学習も積極的に受け入れている。	毎年心療内科の医師を迎え地域にも案内し講演会を開催している。お月見会には地元クラブの踊りの披露もある。地域よりバザーに物品の寄付があったり、地域の夏祭り、おくんに参加しており、小学校の交流学習会や中学校の職場体験を受け入れるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本事業所が開催する周年記念では、認知症について専門医を招き講演会を行っている。また、地域の公民館で介護予防教室を開催し、地域の方の相談や要望も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、利用者の状況や行事の報告を行っている。家族代表、地域包括支援センター、自治会長等参加し、意見交換を行っている。	法人の4事業所合同で年6回開催している。家族、民生委員、行政の参加がある。自治会長からは地域の情報提供があり地域行事のスケジュールの調整等に活かすなど反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の連絡や事故報告を行っている。また、現在の申し込み状況の確認や、新規の紹介等情報交換を行っている。	地域包括支援センターとは日常的に連絡し情報交換している。市町村主催の学習会に必ず職員が参加しており、事業所主催の講演会に長崎市長のメッセージが寄せられるなど市町村との関係作りに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行っている。安全確保のため、休息時のセンサーマットの使用と、職員が一人になる時間のみ(19:30~7:30)玄関の施錠を行っている。身体拘束を軽減できるよう職員間で話し合っている。	身体拘束についての職員研修は年間計画が立てられてあり、ほぼ毎月行っている。日々の介護の中で拘束に当てはまるものが無いか振り返り、カンファレンスで話し合っている。夜間帯を除き玄関の施錠はなく、散歩などに1人で出かける時は職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加したり、職場内で勉強会を行い具体的な理解に努めている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が利用している。月一回の訪問時にホームでの様子を伝えたり、必要物品の相談等情報交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず見学に来ていただくようにしている。改定については個別で相談し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会では、運営に関して、ご家族と職員との懇談会や、個別での相談会、家族のみの懇談会を行い、より具体的な検討会になるよう努めている。また、玄関前に意見箱を設置している。	苦情処理は重要事項説明書に明記し、意見箱を設けている。面会時に直接話す機会が多く、職員が聞き取っている。年1回の家族会にはほぼ全員の家族が参加しており、事業所からの報告だけではなく意見が出やすいように家族同士の話し合いの時間を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個人日誌や個別面談を通し、意見や要望を伝える事が出来る。また、提案はケア会議の議題に上げケアに反映できるよう努めている。	管理者は職員が自由に提案や意見を言えるよう心がけている。日々の気付きは職員同士で話し合い、会議で検討している。職員1人1人の業務日誌は理事長が目を通しており、職員は提案や思いを伝えている。入浴介助のリフト浴が導入される等提案が反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップの為に研修に協力的である。また、個々の状況に応じて勤務体制の調整に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回法人内で研修を行っている。また、職場外への研修案内も多く、本人の積極性があればトレーニングできる環境にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、近隣のグループホーム内で勉強会や交換研修を行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご自宅へ訪問し、本人の不安が軽減出きるよう、関係作りに努めている。ご自宅の状況を把握しながら、入所後も、本人が安心できる環境作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学に来て頂き、ホームの環境や、雰囲気を感じながら、不安なことはないか伺っている。また、可能な限り、要望を受け入れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスが受けられるよう、見学時に現在の状況を確認し、必要に応じて法人内の、他事業所の案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士一緒に食事の支度や、洗濯などを通し、暮らしを共にする者同士の関係作りができている。また、職員も職場である一方、利用者の家であることを頭に入れ、助け合いながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、日頃の様子をお伝えし、リビングや居室でゆっくり過ごして頂ける環境作りに努めている。また、敬老会や、クリスマス会の行事では、料理や設営の手伝いをして頂き、ご家族と共にお客様に喜んでいただける行事を開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別プランを通し、なじみの場所へ外出している。また、ひばりを利用する前の関係を継続できるよう心がけており、家族と一緒に食事をとる方や、法人内のデイサービスを利用されていた方は、定期的に交流し、関係の継続に努めている。	利用者一人ひとりに合わせた個別プランを立て、ドライブや住んでいた所などに出かけている。家族と一緒に墓参りや食事に外出したり、馴染みの人が訪ねてきたり、以前利用していた施設内のデイサービスを往来するなど、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにソファを設置し、関わりやすい環境を作っている。認知症の状態、会話が途切れてしまう時があるが、スタッフが間に入ることによって会話が途切れないように努めている。他の利用者の前で言えない場合は、職員と1対1の時にゆっくり話を聞くようにしている		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設にいかれた場合、定期的に訪問するよう心がけている。また、近隣に住むご家族には出合ったときは声をかけ、行事のお誘いも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や、日常の介護の中で把握し、より良いケアを検討している。失語症の方も多く、本当の気持ちの理解に不足している所もあるが、記録用紙に、センター方式を用いて、本人の立場に立つ姿勢をもち、関わりを大切にしている。	気持ちを表す事が困難な利用者には以前に話していた事を振り返ったり、家族から情報を得たり、表情から思いの把握に努めている。スタッフは記録やカンファレンスで情報を交換している。また、職員の年齢層に広がりを持たせて認知症ケアに細やかな支援ができるよう体制を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話や、アセスメントをもとに、全員で把握している。居室にはベットが設置されているが、入所前に畳の部屋で寝ていた方は同じ環境をつくり、入所前の暮らしの継続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムの把握に努めている。職員間の申し送りや、24時間シートを基に、本人に合わせたケアが統一できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の意見、職員の気づきを反映し作成している。また、利用者一人一人に職員が担当を持つことで、家族との連絡調整を行っているが、家族との話し合いが不十分な面もある。	半年毎にアセスメントを基に担当職員が基本プランを立て、カンファレンスで話し合い作成しているが、検討時間の確保が難しい。毎月担当者が評価し変化が見えた時はその都度、家族に相談し意向を聞き作り変えている。ただし、家族へのケアプラン説明や同意の署名が遅れることがある。	チームとしてケアに取り組むためにも、ケアプランの検討時間を確保することための工夫に期待したい。また、ケアプランは利用者、家族の同意の上で実施することが望ましいため、説明方法など検討することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙に、介護計画や、センター方式の用紙を使用し、本人の思いや、スタッフの気づきを反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、家族の代わりに通院介助を行っている。また、希望があればホーム内の食事提供、自宅へ外出時の送迎対応を行っている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、近所のスーパーへ買い物に出かけることで、なじみの関係を継続しているが、身体的重度化により限られた人のみになっている。外出が難しい方は、個別プラン時に本人に合わせた対応を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人や、家族が希望するかかりつけ医を受診しているが、状況に応じて、地域の専門医や認知症専門の協力医の紹介を行いながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診は家族の協力のもと行われており、場合によっては職員の通院介助も可能である。心療内科受診は職員が行い家族にも同行してもらっている。受診前後の情報を家族と共有している。緊急時は協力医との連携がとれており、往診も対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日々の状態や、変化は随時看護師に相談している。また、変化がある場合、かかりつけ医に相談し、早めに受診対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの他、顔なじみの職員が定期的に訪問し、状態把握している。また、家族より情報も得ている。ホームでの様子も積極的に伝え、情報を共有し、治療が終了すれば、早期に退院できるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、利用者、家族に説明を行っている。現在ひばりでは、口からの食事が困難になった場合、対応を見合わせているが、今後利用者の状況に応じて、段階的に家族と相談しながら看取りまで行う体制を作っている。	重度化に関する指針があり、家族への説明が行われている。段階に応じて再度家族への説明があり同意も得ている。現在のところ事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について職員間で定期的に訓練や勉強会を行っている。また、消防署と連携をとり、救急蘇生法の訓練を行い、職員が冷静に対応できるよう実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中及び、夜間を想定し、定期的に訓練している。また、災害時に必要な物品を点検し備蓄している。地域の自治体と相談しながら、こちらが避難所として受け入れる体制も考えている。	年3回避難訓練が行われており、消火訓練、夜間想定訓練、避難経路の確認が行われている。運営推進会議を通じ、地域の避難所となることを伝えており、災害時の備蓄準備も行われている。但し、今年度は消防署の立ち会いの訓練が実施されていない。	ホームの立地、構造、及び高齢者施設として安全意識の向上を踏まえ、消防署員立ち会いの訓練が実施されることを期待する。

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、人生の大先輩であるという思いを大事にしながら、本人のなじみのある方言や、呼び方を用い、安心して生活できる環境を作っている	トイレ誘導は耳元で声かけを行っている。トイレや入浴介助など羞恥心に配慮して、利用者の希望に沿って同性介助も可能である。書類は所定の場所に管理し、個人情報に関する同意書、写真掲載の同意もある。職員の守秘義務も周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が表現できるような声かけを心がけている。ご自分から思いを伝えることができない方も、利用者中心のケアを職員間で共通認識し、本人に合わせた起床、離床時間に対応している。また、家族より情報を得ながら自己決定できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはあるが、起床時間や食事時間は本人の希望や、その日の状態に合わせて対応している。また、希望に添ったケアができるよう職員間で情報を共有している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に使い慣れた化粧水を使用している方や、行事の時はお化粧をする機会を作っている。ご自分で洋服を選択できる方が少なく、本人の好みを考えながら、スタッフで選択しているが、外出時はお気に入りのスカーフを身につける等、個人に合わせた対応を心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みんなでテーブルを囲み、コミュニケーションをとりながら、野菜切りやおぼん拭きを行っている。ミキサー食の方も、見た目を大切に盛り付けを工夫している。	職員は利用者と同じ食卓で食事をとりながら、介助支援している。入居時や日々の食事摂取から嗜好調査を行い献立に反映させている。咀嚼状況に合わせた盛りつけが工夫されている。外食や誕生会、行事食など食事を楽しむ支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の好みや量を把握し、バランスを考え食事提供している。また、水分摂取が不足している方は、本人が好む味を把握し、栄養剤を取り入れながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた歯ブラシや義歯用のブラシを用意し、仕上げは職員が対応している。また、歯科衛生士の訪問があり、本人との相談や職員も指導を受け清潔保持に努めている		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用する事になっても、トイレに行き座って排泄することを大切にしている。一人一人の排泄パターンを把握するため、チェック表を用いたり、利用者の表情からサインを見逃さないよう努め、排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレ座位での排泄支援を行っている。排泄チェック表で回数や対応をチェックしている。排せつに関する勉強会を開催し、事例検討会を行った結果、失禁が減った事例もある。但し、失禁改善に向けての支援に課題が残る。	利用者の重度化に伴い排泄管理が難しい面が考えられるが、失禁回数の軽減について支援方法等の工夫検討を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に牛乳を飲んだり、食べ物も、ヨーグルトや芋類など食物繊維を取り入れている。また、リビング内を歩行し便秘予防に努めているが、下剤を服用することも多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めていないが、ある程度決められた時間内で行っている。入浴前は本人に確認し、一人一人の体調やタイミングに合わせているが、希望通りの対応に不足している部分もある。	入浴準備は毎日行われており、週2~3回を目安に介助している。脱衣所も温度調整を行い入浴を促す工夫を行っている。拒否があった場合は無理強いせず、声かけや時間変更で対応している。重度化や車椅子利用の利用者の入浴負担を軽減するためにリフト浴になる予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を取り入れながら、適度な運動と休息を心がけている。また、安心して眠れるような環境整備に努め、夜間十分な睡眠がとれない方は、かかりつけ医に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の名前や、作用が書いてある表を作成しており、服用前は、一つずつ確認を行ったうえで介助するよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は今までご自宅でされていた家事や、洗濯をしながら過ごされている方が多い。気分転換になじみのある音楽を流す事で、自然と口ずさまれる方も多い。また、毎月行事を計画し、季節の流れを感じながら生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や、ドライブなどで外出している。また、初詣、花見、夏祭りの行事の参加や、車酔いで遠くへの外出が難しい方は、個別に外出する機会を作っている。	利用者毎の希望でドライブしたり、喫茶店や買い物に出掛けている。季節毎の花見や遠出のドライブには全員で出掛けている。他のグループホームと合同の外出企画も実行されている。外出が無理な場合は、ホーム周辺やデッキで戸外を楽しむ支援に努めている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理が難しい方が多く、個人の預かり金は事務所で管理している。また、外出時や、本人が欲しい物は購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、その都度対応している。手紙のやりとりを希望される方はいないが、家族には職員が定期的に連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度は随時チェックしながら、ホーム内は、どの場所も一定の温度を保ち、快適に過ごして頂けるよう配慮している。中庭や景色の良いベランダ等居心地良い空間や、テーブルには季節毎のお花、金柑やグミの木を飾り、季節を感じてもらえる空間作りを行っている。	季節に合わせた飾り付けをしたり、デスクで季節毎に菜園を利用者と楽しんでいる。共有スペースは床暖房設備があり暖かい空間となっている。窓を開けての換気や加湿器の管理は職員が行っており、掃除は午後から職員が行い快適な空間となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人がけのソファや、一人用の藤椅子でゆっくりできる環境づくりを心がけている。また、みんなでテーブルを囲み、食事や作業を出来る空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、備え付け以外に、本人が使い慣れたソファ、タンス、御位牌等持ち込まれている。なじみの物や、大切にしている物を持ってきて頂く様家族に相談しているが、レベル低下により、本人と相談することが難しくなっている。	居室には自由に持ち込みができ、椅子や筆筒、マリア像など自宅の環境に近づくよう支援している。ベッドや調度類の配置も利用者の歩行状況に応じて検討し対応している。身の回りの整頓や掃除は職員が中心となり行い居心地のいい居室への配慮に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時は、手摺やソファをつたって安全に歩けるよう動線に配慮している。また、利用者の目線に合わせて掲示物やトイレの表示をしている。視覚障害者の方に対して、自由に移動が出来るよう、目印をつける等、環境整備に努めている。		